

各分野で活躍する田原市出身の方を不定期でご紹介しています。



山田 幸央^{ゆきお}さん (谷熊町生まれ)・スイス在住

指揮者、ユーフォニアム・トロンボーン奏者、金管楽器教師

●田原東部小学校・東部中学校を卒業。田原東部小学校4年生のときに、部活動の金管バンド部でユーフォニアムを始める。中学・高校とユーフォニアム奏者を務め、成章高校在学中に米国の高校に年間留学。その後、米国ウィスコンシン大学スティーブズポイント校で、ユーフォニアムを学ぶ。2001年ドナルド・グリーン奨学金受賞。スイス・チューリヒ芸術大学で、トロンボーンとオーケストラ指揮法を学ぶ。現在、スイスで、指揮者やユーフォニアム・トロンボーン奏者、金管楽器教師として活躍中。

ユーフォニアム奏者から指揮者へ

—子どものころの思い出は？

【山田さん】 2歳下の弟と一緒に遊んだことが、印象に強く残っています。近くの小川でザリガニを捕まえたり、町中いろいろなところにクワガタを捕りに行ったり。家ではプラモデルやビデオゲームで遊んだりしました。家の庭で、友だちと一緒に探検ごっこをすることもありました。自然が多い土地で、元気に育ちましたね。

—音楽の道を歩むことになったきっかけは？

【山田さん】 小学4年生で金管バンド部に入りました。私は夏の水泳が楽しみだったので、最初は水泳もできる陸上部を選びましたが、クラスの男子は全員が陸上部希望。それを見かねた担任の先生に、夏には金管バンド部でも水泳ができるからと勧められたのです。金管バンド部に入部し、演奏したい楽器はホルネットでしたが、顧問の先生に「体が大きいから」とユーフォニアムを勧められ吹き始めました。今考えると、この2人の先生がいなければ、今の私はなかったと思います。

しゅしゅ始めた音楽でしたが、しだいに楽器を演奏する楽しさ、仲間と一緒に曲を演奏する楽しさがどんどん膨れ上がり、中学校、高校時代では私の生きがいになりました。私はこの音楽を愛する気持ちだけで、アメリカ、スイスと渡りながら、この道を歩んできました。演奏する人や聴いてくれる人たちに、音楽のすばらしさや楽しさを分かっていただければ幸せに思います。

—スイスで指揮者として活躍されています

【山田さん】 私は指揮者として、スイスでアマチュアの吹奏楽団を3つ受け持っています。指揮



※
▲4月4日(日)に、所属するスイスの英国式ブラスバンド「トゥルタル・ヒュットリンゲン」の演奏会が田原文化会館で開催されました。田原市吹奏楽団とのコラボレーションもあり、満席の会場からは大きな拍手が送られていました。
※英国式ブラスバンドとは、木管楽器を使わずに金管楽器と打楽器だけで構成するブラスバンドのこと

者という仕事は、コンサートで棒を振るだけではありません。コンサート曲目の選択や、コンサートに向けての工程や練習の準備などの事務的なこと、また楽団員一人ひとりとも接していかなくてはなりません。大変ですが、私にとってはやりがいのある仕事です。演奏の実力はさまざまですが、アマチュアの人たちには「音楽を楽しむ」という団結力があり、私が一番気に入っているところであります。コンサートの最後の曲が終わったあとの達成感は、たまらなくいい気持ちですよ。これが、自分と楽団を次のステップに行かせるモチベーションになっています。

—田原市の皆さんへメッセージを

【山田さん】 田原市は私のかけがえのない故郷で、そこで育ったことを今でも誇りに思っています。田原市で出会った人たちが一緒にがんばった旧友たち、経験してきたことは、今までの私の人生の大切な宝物です。これからも、田原市の伝統や文化を守り、子どもたちが自分の道を見つけ出せるような環境を築いていって欲しいと思います。